

巻 頭 言

金沢大学がん進展制御研究所は平成 23 年度より、『がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点』として、文部科学省より全国共同利用・共同研究拠点として認定され、がん進展機構の本態解明を目標として、国内のがんコミュニティに属する多くの研究者との共同研究を推進しています。

平成 23 年度には採択件数 16 件でスタートした拠点事業ですが、年々応募件数も増加し、平成 25 年度には 38 件の共同研究を採択して、実施、推進して参りました。また、海外のがん研究機関との共同研究も推進しており、本研究拠点の強化と国際化を進めているところです。

日本国内に、主要ながん研究拠点がある中で、我々は「転移と薬剤耐性」に着目したがん研究を推進する事で独自性を出す事に取り組んでいます。がんによる死亡の多くは転移と再発が原因であり、それを克服する事ががんの撲滅を実現させると考えています。最近の研究の進展により、循環がん細胞が転移先の臓器で微小転移巣を形成し、そこで幹細胞性や薬剤耐性を獲得したがん細胞が、再発がんを形成すると考えられていますが、本拠点では「がん幹細胞」、「がん微小環境」「分子標的探索」を切り口に、多角的かつ一体的研究を推進する事で、がん進展機構の分子機構を解明し、新規分子標的の探索・開発を行うことで、がんの撲滅に貢献したいと考えています。

平成 25 年度は、当研究拠点の研究資源である、ヒトがん組織バンク、マウスがん組織バンクを利用した研究に加えて、薬剤ライブラリースクリーニングユニットを利用した共同研究も行われ、当研究所の施設、資源が幅広くがん研究コミュニティの研究者に利用されました。この場を借りまして、共同研究の推進により当共同利用・共同研究拠点事業に参画して頂きましたがん研究者の皆様、心より感謝申し上げます。今後とも、がん研究の国際的研究拠点となる事を目指して、より一層の拠点の拡充と整備、そして研究力の強化を進めて参ります。

ここに、平成 25 年度の共同利用・共同研究拠点の活動について、実施状況報告書及び共同研究成果報告書としてまとめましたので、ご報告致します。

金沢大学がん進展制御研究所長 大 島 正 伸